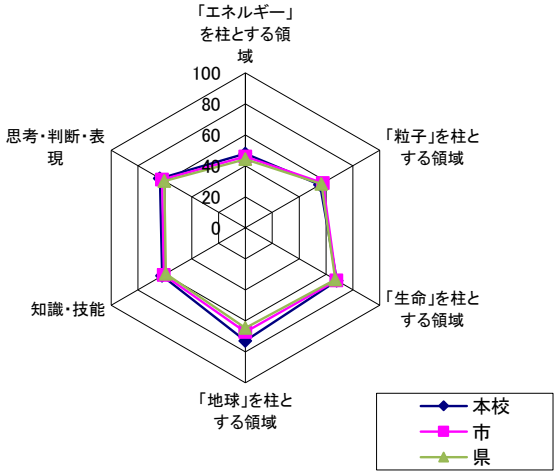
宇都宮市立桜小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	47.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.6	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.1	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	72.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	62.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	63.7	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より高い。 ○並列つなぎを答える問題では，市や県の平均正答率を15ポイント，電流の大きさを問う問題では4ポイント上回っていた。実験を通して繰り返し学習することで身に付いたと考えられる。 ●検流計から考えられることを言葉で示す問題の平均正答率は，市から9ポイント，県から10ポイント下回っていた。	・実験結果を，図や表，言葉などでまとめる活動を行うことで，事象をつなげて考えたり，関連づけて捉えたりできるようにする。 ・器具の正しい使い方を理解させるとともに，どのような場面で用いることができ，どのような効果があるのかを理解させるように指導する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より低い。 ○身近な器具であるエアコンを用いた問題は市や県の平均正答率を7ポイント上回っていた。 ○金属の温度と体積の問題では，市や県の平均正答率を3ポイント上回り，9割近い正答率であった。 ●実験の結果を別の事象に置き換えて考える問題の正答率が低い。 ●空気の性質を問う問題では，市と県の平均正答率を全て10ポイント程度下回っていた。	・実験結果を，図や表，言葉などでまとめる活動を行うことで，科学的事象をつなげて考えたり，関連付けて捉えたりできるようにする。 ・実験で検証した後に，身近なものとの関わりを示していき，普段の生活との関わりを示していく。 ・目に見えないものを扱う単元では，イメージ図を用いたり，ICT機器を活用したりして想像しやすい授業を展開していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より高い。 ○人体について問う問題の平均正答率は，いずれも市と県よりも上回っていた。 ○ヒョウタンの成長を問う問題では無回答はなく，正答率も市や県を4ポイント以上上回っていた。 ●季節と植物の様子についての問題の平均正答率は市よりも10ポイント，県よりも9ポイント下回っていた。 ●全5問中2問で3%の無回答があった。いずれも市や県の無回答率よりも高かった。	・分からない問題に直面してもあきらめずに取り組むことを日々の学習から意識させていく。 ・植物を扱う際には一つ一つにスポットを当てて学習した後に，いろいろな植物に注目させ，大きな傾向をつかんでいけるように工夫した授業計画に努める。 ・タブレットを活用して自然の姿や様子，変化，動き等を撮影したり，児童同士で共有したりする活動を通して，観察結果を視覚的に捉え，「生命や地球」についての理解を深めるように指導を工夫する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より高い。 ○星座に関する問題では，3問いずれも市や県の平均正答率を上回っていた。 ○気温の測り方を問う問題の平均正答率が市よりも23.6ポイント，県よりも30.3ポイント上回っていた。 ●蒸発という言葉を問う問題の平均正答率が市や県よりも17ポイント下回っていた。	・実験をして結果をまとめる際に事象だけに注目するのではなく，その事象の名称を関連付けて覚えられるよう繰り返し指導していく。 ・観察の結果を比較する，データを集めて傾向をつかんでいくなどの考察方法を授業で指導し，児童が自ら実験結果について考察に取り組んでいけるようにしていく。